

[月刊]キリスト教書評誌

一般財団法人キリスト教文書センター

1957年7月17日第三種郵便物認可

2018年3月1日発行 (毎月一回発行) 第723号

ISSN 0286-7001

# 本の ひろば

3 MARCH  
2018

## 出会い・本人

神の前に立つ 丹治めぐみ

ニコス・カザンザキス 著／藤下幸子、田島容子 訳  
キリストは再び十字架にかけられる

柳田富美子

## 本・批評と紹介

落合建仁 著

日本プロテスタント教会史の一断面

棚村重行

佐竹 明 著

現代新約注解全書

第二コリント書 8—9章 辻 建

オリヴィエ・ミエ 著／菊地信光 訳

改革派教会 井上良作

門叶国泰 著

説教聴聞録

—藤盛勇紀牧師の礼拝説教 川染三郎

山口里子 著

イエスの譬え話2 水島祥子

関田寛雄 著

聖書道しるべ 木下宣世

磯部 隆 著

ローマ帝国のたそがれとアウグスティヌス

高橋優子

窪寺俊之 著

スピリチュアルケア研究 西平 直

片柳弘史 著

こころの深呼吸 沢 知恵

サムエル・ブレングル 著／飯塚俊雄 訳

新訳 聖潔のしおり 藤本 満

エイレナイオス 著／大貫 隆 訳

キリスト教教父著作集3—III

エイレナイオス5 異端反駁V 鳥巢義文

近刊情報

書店案内



旧約聖書の「ヨナ書」が色鮮やかな絵本になりました！

新刊  
絵本

# 魚にのまれたヨナのおはなし



ピーター・スピアー 作 小宮 由 訳

神さまの命令から逃げ出した先でヨナは魚にのみこまれ……。預言者ヨナの不思議で壮大な物語を繊細で色鮮やかなタッチで描く聖書絵本。◆A4判変型 上製・40頁・1,620円

2018年2月23日刊行予定

日本説教史に輝く受難と復活の説教15編

日本の  
説教者たちの  
言葉

## わが神、わが神

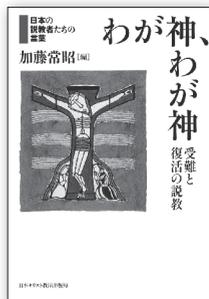
### 受難と復活の説教

加藤常昭 編

キリストの十字架と復活について、植村正久、竹森満佐一、左近淑、由木康など15人が語った説教を収録。各編に丁寧な解説を付し、説教者の生涯と説教の読みどころを紹介する。

2018年2月9日刊行予定

◆四六判 並製・260頁・2,700円



イベントのご案内

## 井上洋治神父帰天4周年命日祭・井上洋治著作選集完結記念シンポジウム

「井上洋治著作選集 第10巻」は  
2018年4月20日刊行予定です

日時

2018年3月4日(日)  
13:00-16:30

▶ 井上洋治神父帰天4周年命日祭・南無アツバの集い

会場

幼きイエス会・  
ニコラ・バレ9階ホール  
東京都千代田区六番町14-4  
(四ツ谷駅麹町口より徒歩1分)

▶ シンポジウム「井上神父とドストエフスキー  
—東方キリスト教を中心に—

参加費

無料 (事前申し込み不要)

- 基調トーク：安岡治子 (東京大学大学院教授)
- パネリスト：山根道公 (ノートルダム清心女子大学教授)
- 伊藤幸史 (カトリック司祭)
- 山本芳久 (東京大学大学院准教授)
- 山根息吹 (東京大学大学院生)

■主催/風の家 ■協賛/日本キリスト教団出版局



## 出合い・本・人

### 神の前に立つ——丹治めぐみ

大学2年生のときに、講義で『ハックルベリー・フィンの冒険』を知った。アメリカを代表する作家マーク・トウエインの小説（一八八五）である。ホームレスだったハックは、町の暮らしの窮屈さに耐えかねて養家を飛び出す。身を隠した先で、所有者から逃げてきた旧知の黒人奴隷ジムと鉢合せし、大河ミシシッピを筏で下る二人の旅が始まる。その顛末をハック自身が物語る。

アメリカ文学に関心が向き始めていた頃で、原書で読もうと張りきって入手したものの、あっけなく挫折した。少年の素朴で生き生きした一人称の語り口に、歯が立たなかった。

自分は規則正しい生活の不自由さを嫌って飛び出してきたのに、自由を望むジムをハックは理解できない。奴隷の逃亡は、所有者にとつての損失であるばかりでなく、白人が黒人を支配する当時のアメリカ南部の社会体制そのものを危うくする。社会は窮屈だと感じるハックも、これを当然のこととして受け入れている。

それでも二人の旅は続く。追われる恐怖におびえるジムにすれば、ハックは自分をかくまってくれる唯一の協力者だ。一方ハックもまたおびえている。逃亡奴隷を見逃すのは社会の掟を破る罪であり、ハックにとつてそれは神の前に罪をおかすこと

にほかならない。神を怖れる気持ちが膨らんでいく。

ついにハックは、所有者にジムの居場所を知らせると断言する。わずか2行の手紙を書き終え、胸のつかえがおりると思いきや、筏の旅の数々の場面が脳裏に浮かぶ。いつもジムに親切にされてきたこと。たった一人の友だちだ、と言われてきたこと。

奴隷制度のある地域に生きる白人としての常識と、友の自由のために行動しようという心の間に生じる葛藤を、トウエインは「歪んだ良心と健全な心の戦い」と表現した。健全な心が勝利した瞬間、「よし、地獄に堕ちてやろう」とハックは言う。自分は神に背く、と彼は信じている。読者は、果たしてそうだろうかと考える。

ハックは一人きりで神の前に立った。「地獄に堕ちよう」というひと言は、単に腹をくくるとか思い切るといふのとは違う。自分の存在をかけた、他者のための決断である。

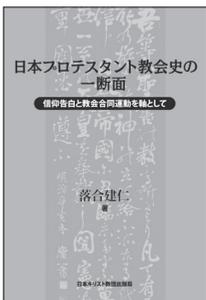
ジムとの筏の旅を回想する箇所は、文が長く続き、そのリズムがまさに走馬灯のごとく情景を浮かびあがらせる。何年もかかったが、美しい文章だと感じるようになった。

世の中とはこういうもの、と思いたくるときに、ハックのように神の前に立てるだろうか。読むたびに、自問させられる。

（たんじ・めぐみ 玉川大学文学部教授）

緻密で実践的「歴史神学」書の登場  
落合建仁著

# 日本プロテスタント教会史の一断面 信仰告白と教会合同運動を軸として



棚村重行

私の留学時代にお世話になったキリスト教史家M・マーティ教授は微笑み、よく言っていた、「良い歴史家は悪しき神学者、良い神学者は悪しき歴史家が多い」と。神学の広く実践的な構想力と緻密な歴史学的実証力との結合は誰にも大層難しい課題である。とすれば、両者を連結する学科「歴史+神学」(一)とは、なんと難しい課題と緊張を抱えた分野か、想像できよう。

最近刊行された落合建仁氏の作品は、本の標題と副題が示すように、過去十年ほどの間に歴史神学分野で氏が公表した十二論文をまとめた最初の論文集である。氏は、「本書の主題が、教団にあつて(いかに教会を形成していくか)に注視している」と述べ、研究者よりも、広く教会教職者、役員、信徒に「興味をもって読まれ得るものとなっているのではないか」とその神学的実践的貢献をも希望する(四頁)。だから、本書の理想も文字通り「歴史+神学」の一作品たることであつたのであろう。そのために、氏は十二の論文を五部に分け再構成する。以下では各部の個別論文の主題タイトルと全体の構成を紹介したい。

教会のウォルトン宣教師、組合教会の海老沢亮牧師ら、「主役」的人物の役割について新事実を史料から解明している。

「第四部」では、「第八章 『教義ノ大要』 条項の成立経緯をめぐって」、「第九章 日本基督教団成立時の『生活綱領』について」の丹念な史料研究に基づく成果を配置する。これらは先行研究がさほど多くない領域での氏の独自の貢献であろう。ただ「第一〇章 日本メソヂスト教会『宗教簡条』一六条の成立をめぐって」をこの第四部に配置している。だが、内容は教団時代よりも、旧メソヂスト教会の国家倫理の形成過程を重視している。だから、旧メソヂスト教会の「部」を設け、旧長老派、旧組合派のそれらと並べる構想も可能ではなかったかと思われる。

最後に「第五部」、「第一章 日本におけるラジオ放送伝道の歴史」、「第二章 金城学院とラジオ放送『キリストへの時間』の関係について」は、金城学院が関係した南長老派ミッション

「第一部」には「第一章 初期日本プロテスタント教会における〈聖書解釈の伝統〉理解」、「第二章 日本における礼拝指針の系譜」、「第三章 愛知における長老教会の伝道事始め」の諸論考が収録されている。総じて、日本基督公会―日本基督一致教会―日本基督教会時代の諸信仰告白、「礼拝指針」、愛知伝道の特徴などが新資料も駆使され記述されており貴重である。続く「第二部」では、旧日本組合教会の初期の神学問題が取り扱われる。「第四章 熊本バンドに移植されたL・L・ジェーンズの神学・思想とその影響」、「第五章 組合教会『信仰告白』の制定経緯」と題される。氏は、ジェーンズの最近利用可能となった英文史料に基づき彼の自由主義を解明し、また「信仰告白」の緻密な歴史学的な分析による議論が光っている。

「第三部」には「第六章 日本基督教連盟における教会合同運動の契機」、「第七章 なぜ日本基督教連盟は教会合同運動の担い手となり得たか」の二章を配置する。ここでは教会合同を目的としない基督教連盟がなぜ合同運動に躍り出たのか、英国ヨンと教団、改革派教会のラジオ伝道をめぐる面白い「地域伝道史」である。先の第三章の長老派の愛知伝道史論文とまとめ、この「第五部」で愛知や名古屋の地域伝道史研究の実践的神学的意義を一層強調する選択肢もあつたのではないかと思う。結論として、注文を述べれば、本書の構想を讀者に示すため、先ず目次や本文中の各「部」に著者による新しい主題・副題を付し、また構成を五部分けにした理由に関し、「歴史+神学」的な理由や構想を「まえがき」等で十分に解説しておいたら更に良かったであろう。だが氏の著書の中に英米―日本教会関係史の力ある実証的「歴史学」の一作品の誕生が確認でき、加えて実践的・神学的にも健全な「歴史+神学」研究書を今後とも公表される期待を抱かされた。讀者にも本書の熟読を勧めたい。(たなむら・しげゆき〓東京神学大学特任教授)

(A5判・三〇四頁・本体三六〇〇円+税・日本キリスト教団出版局)

説教作りを助け、信徒の学びに供する実践的な注解シリーズ

## 現代聖書注解 INTERPRETATION

31年の歳月を経て  
全44巻完結!

全44巻セット  
293,738円  
各巻 A5判・上製函入

ここに機会を  
全巻を揃え  
取りませんか

シリーズ  
最終回配本

## 士師記

J・C・マッカーン 山吉智久 訳

説教者も信徒も、士師記から福音を読み取るための必携書!

争いと残虐行為と不道徳に満ちた士師記。抑圧にうめくイスラエルに士師たちを送り、絶えず民を救おうとし続ける神の恵みを語るこの書から、現代への使信を読み解く。

A5判 上製函入・242頁・4860円

日本キリスト教団出版局  
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18  
☎03-3204-0422 ☎03-3204-0457  
E-mail eigyouto@bp.ucci.or.jp (価格8%税込)  
<http://bp-ucci.jp>

パウロの献金観の解明から教会論への問いへ  
佐竹 明著

## 第二コリント書 8-9章 現代新約注解全書



辻 建

佐竹明氏が、ガラテヤ書、ピリピ書、ヨハネの黙示録に続いて、同じシリーズから第二コリント書の注解を出し始められた。その緻密で高度な注解は、日々聖書のテキストと取り組むわれわれ牧師たちの説教の質を高めていくことだろう。

本書は、第二コリント書の概論から始まり8-9章の注解に続いていくので、一見奇異な感じを受けるかもしれない。本来第二コリント書はいくつもの手紙の断片からなっているので、こうした順序の逆転はさほど奇異なことではない。しかし8-9章が先に選ばれたのにはそれなりの理由がある。

この2章には、パウロが最後の第三伝道旅行で実施した「エルサレム教会への献金」問題が扱われている。第二伝道旅行のきっかけになったアンティオキア教会でのペトロやバルナバとの亀裂にもかかわらず、パウロはその旅行の終わりにはエルサレム教会への献金を思いつき、第三伝道旅行のすべてをそのために用いた。その根拠はなんだったのか。

この史的考察をさらに集中的に扱っているのが、補説3「パウロによるエルサレム教会献金運動」である。本書の約4分の

1を占める論文となっており、主要な点が押さえられている。エルサレム教会への献金の根拠としてまず考えられるのは、パウロたちは異邦人へという伝道の区分けが了承されて握手がかわされ、その付帯条件として「エルサレムの貧しい人々を顧みる」ことが約束された。しかしアンティオキア教会での衝突以降、バルナバと別れて独自の伝道の旅を始めたパウロにとって、この決議は疎遠になったものと思われる。

次に、8章では、献金が貧しい者の窮乏を補い、バランスの取れた伝道条件を作り出すという「釣り合い論」が展開され、9章では、献金を受ける者と与える者とのあいだに「慕い合い」を形成するというコイノニア論が展開されている。しかしこれらは献金一般についての根拠ではあるとしても、必ずしもエルサレム教会のための特殊性を示すものとは思われない。

著者はその転換点をパウロとエルサレム教会との信仰の連続性のなかに見ようとする。その根拠としてまず挙げられるのが第一コリント15・3-5に記されている「最も大事なこととし

てわたしがあなたに伝えたのはわたしも受けたものです」との復活伝承である。そこにはエルサレム教会が大事にして来た復活顕現表が存在し、パウロへの顕現もその表に加えられ、パウロにとっても自覚的なものであったと著者は判断する。連続性を示すもうひとつの根拠はパウロが旅行の終わり近くに記したためたローマ書9-11章の記述である。ここではイスラエルに接ぎ木された異邦人たちにふたたびユダヤ人たちが接ぎ木されるという信仰の連続性が熱く語られている。それは必ずしも異邦人教会とユダヤ人教会との連続性を語っていないが、その後エルサレム教会への献金に触れていることから、それを暗示しているように見える。

そこから著者は、第二伝道旅行末のエルサレム行きを目的の次のように推論する。「第二次伝道旅行末のエルサレム訪問は、このような自負を持ちながら、次の段階として帝国西方に足を踏み出すに先立って、帝国東方に残す自分の建てた教会の順調

な成長を願って、エルサレムに後事を託す思いで臨んだ訪問だったのではないだろうか」(三三七頁)。その後エルサレム教会宛の献金運動が集中的に展開され、それを阻もうとする巡回教師たちの敵対行為も加熟する。史的事実の究明は当然のことながら推論を生み出すが、それがどこまで聖書の記述に厳密に即しているかが問われる。読者はそうした学的手法を学ぶことができるだろう。

著者の考察は献金観で結ばれる。パウロが自己完結的な教会のあり方に風穴を開けたという成果に、われわれは目を留めるべきだと。今日の教会のあり方への著者の問いかけでもある。

本書に続いて10-13章が出版され、数年後に1-7章が扱われると予告されている。80歳半ばを越えられた著者の健康が支えられて無事完結に到ることをお祈りする。

(つじ・けん) 日本基督教団隠退牧師、大島在住  
(A5判・三九三頁・本体七〇〇円+税・新教出版社)

夜の客  
遠いあなたへ  
不思議な縁  
高橋たか子

高橋たか子の小説世界を  
堪能できる三作品

NHK ラジオドラマ「誘惑者」  
を収録したCD付。主人公を岸  
田今日子が演じ、その独特な語  
り口で、高橋たか子の文学世界  
を表現している。

四六判・上製  
定価 [本体 3,200 +税] 円  
ISBN978-4-86325-100-7

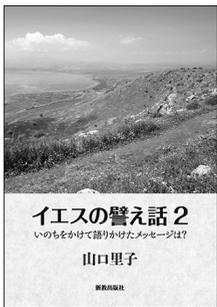
株式会社 一麦出版社  
札幌市南区北ノ沢3丁目4-10  
TEL (011) 578-5888  
<http://www.ichibaku.co.jp>  
携帯 [mobile.ichibaku.co.jp](http://mobile.ichibaku.co.jp)

伝統的な解釈を打ち破る、目が覚めるような読み方

山口里子著

## イエスの譬え話2

いのちをかけて語りかけたメッセージは？



## 水島祥子

「難しい?」「いいえ。」「専門書?」「そうですね、誰にでも読めますよ!」

著者山口里子さんの講演を一度でも聞いた者なら、その深い知識に裏打ちされたイエスのメッセージ解説を、もっと聞きたくなる経験をお持ちのことだろう。講演を直接聞いているかのような味わいが、この本にはある。イエスに心惹かれてしまった、日本では超少数者の皆さん、『1』のみならずこの『2』もどうぞ。『2』は、非キリスト者にも知られている、より有名な譬え話ばかりで、読みやすい。

例えば、『フアリサイ人と徴税人』。伝統的な解釈では(そして今でも多くの教会では!)、自分はフアリサイ人でなくて良かったと説かれ、優越感に浸りがちだ。しかし、ローマ帝国と神殿システムの両方で差別、抑圧の中に喘ぐ徴税人をそのままにしておいて(=差別の放置、=現状への肯定、平気な「自分」が現代にいと気づかされる。次に、『種まき』。幼稚園や教会学校(死語?)時代から、絵本や紙芝居で再生産され続けた「心を良い土地にしましょうね」的教育。どれほど高価な種を蒔い

ても、種は芽が出ないこともある。そんなことは、にわか百姓でもしてみれば経験的にわかる。人間にできることをすべてやったら、後は神に任せるより他ない。このことを、ガリラヤの農民は誰よりも知っていたはず。さらに、『からし種』。小さいくせに、境界線を越えてまで増えるやつかい者、でも薬にもなる優れもの、これこそが神の国のイメージにピッタリなのは? その他、断られた食事会、パン種、10人の乙女たち、裁判官と寡婦、サマリア人、と誰かの説教で何度も聞いたし、自分でも取り上げた話が続く。原語や注解書まで当たっているのに、こんな話だったっけ? 各章の「テキスト分析」を読み進む度に不勉強を恥じ、穴があいたら入りたくなる。

この本の魅力は、「はじめに」から第1章、第2章、……と続けて読んでいく面白さにある。もちろん、興味のある章だけを読むことも可能だが、積み木を重ねて大きな建物を造り上げるような楽しさは、順に読んでいく者にしか味わえない。筆者のような牧師は、教会や学校、幼稚園で説教を行う機会が多い。説教準備の段階で、「あの本のここに」と引っ繰り返す(牧師

あるある、の一つ)場合はその章だけで構わないが、時間を見つけて、是非とも前から順繰りに読んでいただきたい。著者山口里子さん「はじめに」の最後に「じつくり向き合って読んで」と書いている通り、第1章を飛ばしてしまうと、続く章に積み木を重ねていけなくなるからだ。

筆者担当の授業で、『1』を教科書にして3年目となる。講義の目的は、キリスト教の基となるイエスのメッセージの理解である。それがなければ、キリスト教を真に理解したとは言えないからだ。毎回の授業終了時には、アクティブ・ラーニング(考える学び)として、受講生は感想や質問を提出する。特筆すべき例を挙げよう。『1』の「不正な財産管理者」の受講後は、「ただ聖書を読んだ時の印象と、主人、財産管理者、農民・商人の関係が、全然違って見えることに驚いた」との声が毎年あがる。つまり、主人の下で雇われている財産管理者は主人の財産を増やす(=農民・商人を搾取する)のが仕事であるため、普段は農民・商人と直接交渉する中で敵対関係にあり、彼らからは恨みや不満を抱かれていたが、単なる告げ口という「弱者の武器」を用いた農民・商人と、それでクビにされる逆境を逆手に取って巧く立ち回った財産管理者がもし相互扶助の関係になったら、圧倒的な強者であるはずの主人の立場が弱くも捉えられるというのだ。「もし……たら/れば」という仮定の話なので、実際はそうならない可能性が高い、と山口さんの解説は続くが、これはイエスから私たちへの問いであり、置かれてい

る現状への挑戦である。あなたは誰と繋がって生きるのか、自分たちは食べていけるが、他人が落魄しそうになっている時に、その他者を、共に生きる仲間と認識できるのか。学生たちのまだ決して広くはない世界観に、この本で学ぶ「イエスの譬え話」によって一石が投げられ細波が起こり、続いていく自身の人生での岐路に立つ時、否、机を並べて学ぶ友のほんの小さな危機にでも、どのように向き合うのか問われてほしい。

学生たちと繰り返し学んで気づいたのが、イエスの視座である。イエスが世の中をどこから何に着目し、どのように捉えていたからこれらの譬え話をしたのか、が遅まきながらわかるようになってきた。神学生の間に学んでおけよ、とお叱りを受けそうであるが、また、これは『1』『2』に通底しているが、譬え話にイエスの思いがエッセンスとして凝縮されていることだ。授業では、現代の社会構造との共通点、相違点についてまとめる課題を出している。鬼教員の下で学ぶ学生たちは偉い。主人と農民など譬え話の登場人物を、自分のアルバイトの経験や卒業後のキャリアと関連付けて、「ブラック企業」だの「上司と部下」だの文言を用いて、自分たちの視座から思いめぐらし、まとめてくる。

最後にこう呼びかけたい。「皆さんも、イエスの視座を、この本で見つけてみませんか?」

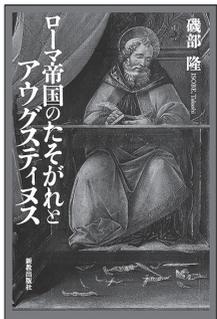
(みずしま・しょうこ 松山東雲女子大学・松山東雲短期大学宗教主事)

(A5判・二四五頁・本体三〇〇円+税・新教出版社)

キリスト教の「基本文法」が整った時代を重層的・立体的に描く

磯部 隆著

## ローマ帝国のたそがれと アウグステイヌス



高橋優子

著者の磯部隆氏は、名古屋大学法学部および同大学院法学研究科で長く教鞭をとられ現在は名誉教授だ。著者は、学生だった頃の評者の目に博覧強記・語学万能の研究者に映ったものだが、今ふりかえっても実際そのとおりだと思われる。専門は政治思想史だが、西洋政治思想史と東洋政治思想史をひとりで教えておられた。現在はおそらく別々の教員が担当しているのではないか。それが普通だ。一口に政治思想史といっても、西洋と東洋とは必要とされる言語も内容も全然違う。その見はるかす先の広さと深さにおいて、稀有な学究といえよう。実際二けたにも及ぶ著者の作品をざっと思い浮かべただけでも、古代ユダヤ教（旧約時代の思想）・キリスト教（新約時代の思想）・古代ギリシア思想・仏教（原始仏教の思想・日本仏教の思想）・儒教（孔子の思想）など多岐にわたっている。ヤス・バースのいわゆる「軸の時代」論やウエーバーの世界宗教の見方を前提しつつ、その先を開拓する作品の数々だ。

その著者が満を持して二〇一七年のクリスマスマスに出版したのが本書だ。キリスト教が、四世紀後半から五世紀前半にかけて

現在も有効な「基本文法」を整えていく時代を詳細に扱っている。そしてカトリックのみならず、プロテスタントをも含むキリスト教神学の父ともいえるべきアウグステイヌスの思想がメイン・テーマとなっている。本書は構成もユニークだ。一〇九章に序章と終章を加えた計十一章はすべて著者が話者となるスタイルによる小説風の政治状況や主要人物の紹介ではじまり、その後にはアリピウスの語りによってアウグステイヌスの思想が述べられる（その点については、全編弟子のバルクがエレミヤを語る別の作品と同じ構想といえる）。量的には前者の方が多いのだが、本当に読んでもらいたいのは後者なのかもしれない。

とはいえ、前者がなければ後者が充分には理解できない。思想は歴史状況に還元されるだけのものではないが、歴史的文脈抜きに生じるものでもない。両者は相互規定的に絡み合っている。そして偉大な思想はそれを超えて影響力を持つ。

アリピウスはアウグステイヌスの弟子とも友人ともいえる人物で、おそらくもっともよくアウグステイヌスを理解していた人物と考えられる。章の最初の方が小説風だといっても、研

究者らしさが随所にのぞく。とくにおもしろい視点は、著者が「資料の不在」を説明するところだ。聖書学研究者は、これにほとんど意図を読み取ることをしてしない。古代のことゆえ、資料が少ないのは仕方ないことだと考えるからだ。しかし、ローマ帝国は古代とはいえ、官僚制の高度に発達した世界だ。記録は残っていてしかるべきなのだ。あるべき記録がごく少ないあるいは存在しないということは、それをあえて記録したくない理由があったに違いない。著者は複数回そのように解釈する。そしてそれは、いかにも納得できる説明になっているのだ。さらに著者の独自性は、時折章の最後に添えられる「批判されている側の言い分」とも呼ぶべき創作文書にも表れている。歴史は勝者が書くものなので、敗者とされる側の意見は内容にかかわらず否定的にとらえられるようになる。あるいは忘れ去られる。それではあまりに一面的な記述になるのではないか。「敗けた」思想にもそれなりの意義があったのではないか、という

思いがうかがわれる。第四章に添えられた「あるユダヤ教師の覚え書き」、第五章に添えられた「ドナティスト派司教オプタトゥスの檄」「ドナティスト派司教ガウデンティウスの最後の説教」などがそれにあたる。歴史的事象を重層的かつ立体的に把握してほしいという教育的配慮でもあろう。

アウグステイヌス対ペラギウスの自由意志論争など、ルター対エラスムス、ホップス対ルソーと時代を超えてくりかえされる重要な論点も、アリピウスの語りの中でわかりやすく説明される。アウグステイヌスの思想、とくに『告白』や『神の国』をよく理解したい読者には、本書を通読した後にはアリピウスの語りの部分を再読することをおすすめしたい。

（たかはし・ゆうこ＝酪農学園大学准教授）  
（四六判・三五〇頁・本体三二〇円十税・新教出版社）

西谷幸介（青山学院大学教授）

## 教育的伝道

### 日本のキリスト教学校の使命

\*2月25日発売!



キリスト教の日本伝道は今まさに「危機」に瀕している。その原点に今一度立ち返ることが求められている。本書は、学校教育再興論への提言であり、教育的伝道の仕上げである。教会と学校の分離ではなく区別の中で、しかし素振りだけで終わらない、両者の本当の連携の必要を懇切に論じる。 ●A5判美装・三七六頁・三六〇〇円

西谷幸介（青山学院大学教授）

## 十字架の七つの言葉

キリスト教信仰入門



キリスト教が説く十字架の中心的な意味を理解する「十字架の言葉」に焦点をあて、キリスト教をほとんど知らない方にもその真髓が理解できるようにした入門書。改訂新版として復刻。 四六判・一九六頁・一五〇〇円

株式会社ヨベル YOBEL Inc.  
お問合せは info@yobel.co.jp  
〒113-0033 東京都文京区本郷4-1-1  
TEL03(3818)4851 (本体税別表示)  
\*自費出版の専門出版社\*資料・呈

悩めるすべての人へのメッセージ  
片柳弘史著

こころの深呼吸  
気づきと癒しの言葉366



沢 知恵

文庫本サイズで、手触りのよいあたたかみのあるカバー。日めくりカレンダーのように、一ページにひとつずつのことば。詩集のようなたつぷりのスペース。それゆえ厚みはあるけれど、消費税込みでも千円でおつりがくるとは。手に取りやすく、親しみやすい本です。

内容は、悩めるすべての人への慰めと励まし、そして気づきへのメッセージです。いわゆる自己啓発系の本とみなすこともできますし、そのほうがマーケティングしやすいかもしれせん。しかし読んでみると、ずっしり心に響くものがあったり、何かがちがう。「うゝむ」と思わずうなり声をあげてしまったり、意味はわかっても、くり返しかみしめたくなったり。けっして押しつけないのに力強い。いったいどんな人が書いたのだろうと興味がかかります。

片柳弘史さんは一九七一年生まれ。あらま、私と同じ歳！そこでまず背筋が伸びます。大学で法律を学んだ後、インドのコルカタでボランティアに従事し、マザー・テレサから神父になるよう勧められてイエズス会に入会。現在は山口県で教会の

神父、幼稚園の講師、刑務所の教誨師として働いていらつしやるそうです。にっこり笑った童顔のお顔は、これまた親しみやすく、私を含め六万人以上がフォロワーしているツイッターには、すずめのかぶりものをした写真で登場しています。毎日のように投稿されるすずめの写真は圧巻で、小さいものへのいつくしみに満ちたまなざしに、多くの人が癒されています。「すずめ写真家」という肩書も加えてよさそうです。

本の中から、いまの私をとらえたことばをいくつか紹介します。「心に傷を受けたときは、どこにどんな傷を受けたのかを確かめましょう。傷口を確かめれば、その大きさと深さにふさわしい治し方が分かります。重傷をかすり傷だと思えば、傷はますますひどくなるばかりです。(二月二日)」

つい大丈夫なふりをしてしまいがちな私。うんと傷ついたのでと自覚することからしか一歩を踏み出せなかつたあのと、そのことを思い出しました。

「なぜ、わたしにこんなにもよくしてついた心を癒せるのは、『なぜ、わたしにこんなにもよくしてくれるのだろうか』と思うほどの優しさの体験だけ。理不尽な苦しみを癒すことができるのは、理屈を越えた愛の温もりだけです。(四月四日)」

何度このような深い愛に救われたことか。圧倒されるほどの愛に。はたして私に同じことができるだろうかと思うのです。「『コンディションが悪いから』というのは、言い訳になりません。コンディションを十分に整えられなかったことも含めて、それが今の自分の実力なのです。言い訳して逃げ出さず、謙虚な心で現実に立ち向かいましょう。(六月一日)」

「たった一人でも存在を否定された人がいる限り、その社会に平和が訪れることはありません。自分の存在を否定された人が、黙っていなくなるはずがないからです。平和な社会とは、すべての人が自分の居場所を見つけられる社会のことなのです。(八月一日)」

アーメン！ 真の平和の意味と、そのために日々自分がなすべきことを再認識しました。他にもたくさんありますが、誌面の都合で紹介しきれません。読む人によって、またそのときの心のありようによって、響くことばもちがうことでしょう。見事なまでにキリスト教用語は登場しません。聖句の引用もありません。「愛」「祈り」「神さま」はたくさん出てきますが、それはどんな人の心にも通じるものとして。聖句さえ散りばめれば伝道になると勘違いしているクリスチャンたちに、いや、日本での伝道はそうじゃないでしょう、と静かな一撃を食らわしてくるかのよう。読み終えて、これほど伝道にふさわしい本はないと思いました。イエスさまのことばは、やさしいだけではないと思います。ときに厳しく、激しく、語りかけてくださつた。あつ、聖書を読んでみたい！

(さわ・ともえ＝歌手、日本基督教団岡山教会員)  
(A6判・三九〇頁・本体九〇〇円＋税・教文館)



本館の教文館  
http://shop-kyobunkwan.com/

東京神学大学神学会編 3月刊行予定 ● 四六判・400頁・本体4,200円

# 新キリスト教組織神学事典

長年にわたり読者の信頼を得てきた事典の新版。神学における最重要項目を選定し直し、全項目を新たに書き下ろした。組織神学を学ぶ上で必要な、伝統的な教理の理解から今日的・現代的議論までをコンパクトにまとめたハンデイレキシーな神学事典。

〒104-0061 東京都中央区銀座4-5-1  
TEL 03-3561-5549  
呈 図書目録 ● 価格は税抜

救済の展望を説く、『異端反駁』の最終巻！  
 エイレナイオス著  
 大貫 隆訳

キリスト教教父著作集3—III  
 エイレナイオス5 異端反駁V



鳥巢義文

エイレナイオスは先行する『異端反駁』第三巻、第四巻におけるのと同様に、この第五巻でも聖書の様々な箇所を引き合いに出しながら、本書の名宛人に正統信仰の立場を解説している。エイレナイオスのリヨンにおける司牧者また「御言葉を語ることに仕える者」(六頁)であろうとする立ち位置は一貫していると言つてよい。そして彼は「本巻では、これまで触れないまま残されてきた主の教えと使徒たちの手紙に基づいて、改めて論証を試みたい」(五頁)と執筆方法を述べている。はたして、この言葉にエイレナイオスが忠実であったか否かは、訳者である大貫隆氏による「あとがき」を参照されたい。ここでは、そのエイレナイオスの解説の中から、肉体の救いそして終末における救いの展望というテーマについて、彼の言葉を引きながら紹介してみたい。

まず、エイレナイオスの身体・肉の救いへのこだわりである。言葉を拾つてみたい。彼は、救いの対象となるのは肉体であるという。「死ぬものと生かされるものとは別々のものではない。……死に定められていたのは一体何であったのか。それは命の

氣息が立ち去って、息のない死んだものとなった肉の実体のことである。主はその肉の実体に命を与えるためにこそ来られたのである。それは、われわれがすべて心魂的な者としてアダムにおいて死ぬように、キリストにおいて霊的な者として生きるためであった。ただし、われわれは神が造られたもの(身体)を脱ぐのではない。むしろ肉の欲望を脱いで、聖なる霊を受けるのである」(二二九頁)。また、「十全な人間とは、……父からの霊を受け容れた心魂が……神の形(imago)として造られた肉と結合されて、両者が混ぜ合わされて合体したものである」(二〇一―二頁)。これらの言葉の背景には、自らを霊的なものと称する論敵たちによる身体・肉への蔑視の思想に対するエイレナイオスの反駁があると考えられる。

つぎに、終末における救いの展望および復活者における進歩の必要性の主張である。終末について語る場合、エイレナイオスは預言書や黙示録また長老たちに学びつつ、「人間を甦らせるのは真に神である。……人間は本当に死から甦るのであり……王国の時が続く間に、不滅性に向けて準備し、成長し、

生きる力を強めて行き、やがて父の栄光を受けるに足るものとされる」(一一五頁)と言つ。そして、救われる者たちは「段階を追って前進して行く……すなわち、霊を通して御子へ至り、御子を通して上昇し、父のもとに至るのである」(一一六頁)とその進歩の過程について解説している。同じく「不滅性の始まり」についても、義人たちの王国において、救われるべき者が「少しずつ訓練されて神を把握するようになる」と述べている。救いを論敵たちのように霊的覚醒とはせず、父と子と聖霊による救いの経綸(オイコノミア)によつてもたらされるものと考えるエイレナイオスによれば、終末の来るべき義人たちの王国においても、父の王国においても、救いにふさわしいとみなされる者たちには、そこにおいてさらに進歩していくことが求められている。

エイレナイオスの出自は小アジアとされている。本書の初めに「神の言葉であり、われらの主なるイエス・キリスト……は

無窮の愛ゆえに、われわれがそうであるものと同じものとなられた方である。それはわれわれを彼がそうであるものと同じものへとやがて完成してくださるためである」(六頁)と述べるが、エイレナイオスの解説の節々に、その救済史神学の基盤に「聖なる交換」思想との共通性を確認することができる。また、「陰府下り」思想やキリストの「千年王国」思想なども、エイレナイオスが活動した二世紀の教会を取り巻く状況を反映しており興味深い。

大貫隆氏は第一巻と第二巻に続いて今回第五巻を翻訳された。小林稔師の第三巻、第四巻とあわせると、『異端反駁』全巻の翻訳が完成したことになる。古代教父の著作を身近なものとしてくださったことに心より感謝したい。

(とりす・よしふみ) 南山大学学長・人文学部教授  
 (A5判・一八二頁・本体四六〇〇円+税・教文館)



キリスト教書総目録 2018年版

明治150年 近代日本とキリスト教 巻頭エッセイ 鈴木 龍久氏 小椋山ルイ氏

総記 年鑑 辞(事)典 図説 年表 / 全集(著作集) 叢書 講座 / 聖書 / 聖書学 / 神学 / 宗教学 / 思想 倫理 / 伝記(ライフ) / 信仰 入門書 / 人生論 / 説教集 / 文学(小説) 評論 / エッセイ / 詩 / 劇 / 音楽 / 美術 / 建築 / 教育 保育 / 心理 / 社会福祉 / 児童 絵本 / 讃美歌 / 式文 / DVD / CD / カセット / ビデオ / キリスト教関連雑誌 新聞 / 書名索引 / 著者索引 / 掲載出版社名簿

■ A5判 一般頒価1冊286円+税 送料250円  
 ■ お近くの書店様でお求めください。

キリスト教書総目録刊行会  
 事務局 〒162-8710 東京都新宿区  
 東五軒町6-24 トーハンビル内  
 TEL.03-3266-9521

現代に訴えるギリシア文学の金字塔  
ニコス・カザンザキス著  
藤下幸子／田島容子訳

## 再び十字架にかけられる キリストは



柳田富美子

『キリストは再び十字架にかけられる』は、カザンザキスの代表的作品の一つである。

まず、日本ではあまり知られていないカザンザキスであるが、彼は作家であるとともに、常に人間の存在や社会における人の生き方という普遍的テーマに取り組み続ける、行動する思想家でもあった。単に思考の世界に留まることなく、生きることの意味への答えを求めて、実際に宗教や哲学、社会主義、実業、政治などの世界に自ら飛び込んで行った。カザンザキスによれば、人は常に本質を求めて探究し続け、世俗を超越しなければならぬ。無為に時を費やすことなく、「日常」と「普通」を越えなければならぬ。無為に過すことは人を墮落させ、尊厳を失わせる。彼はまた、森羅万象を慈しみ、愛しいまなざしを向けている。文化、風景、野の花々や小動物にいたるまで自然界の一つひとつのものが全体の中でなんらかの役割を果たし、生を営んでいると考えていた。

さて、作品『キリストは再び十字架にかけられる』の舞台は二〇世紀初頭のオスマン帝国治下、アナトリア半島にあるギリ

シア人村という設定で、復活大祭から降誕祭までの間に起きる一連の事件が描かれている。オスマン帝国の支配下にあるとはいえ、自然に恵まれ、そこそこ豊かで平穏な日々を送っていた村人たちの生活、そして、金と欲に支配されつつ、先祖から受け継いだとおりに生きて子孫へとつないでいく村の指導者たちの澁んだ生活が、ある日突然、村になだれ込んできた多数の難民集団によって大きな試練にさらされ、脅かされることになる。村人たちを率いる神父や村長はどのような心理でどのような行動をとるのか、当初、温厚なこの村の人々は同胞の難民たちを不憫に思い、手を差し伸べるが、時の経過とともに自らの土地や財産あるいは健康が不利益を被る可能性が出てくると、どのように態度を変容させていくのか。それは自分たちの既得権を守ろうとする本能かもしれない。キリストの受難劇を演じることになった若者たちは自らの役をどう受け止め、どう昇華させていくのか。誰しも人は試される。カザンザキスの目はあくまで厳しく、日常に潜む醜態が白日の下にさらされていく。

カザンザキスは、登場人物たちの一人ひとりに、愛欲、金欲、難民には絶望感、ギリシア人社会には増え続ける難民が社会を脅かしつつあるという恐怖と反感が次第に広がりつつある。欧州のみならず世界各地で移民・難民の受け入れが問題になりつつある今、まさにそれぞれの社会で異質のものに対する受容性が試されている。

本訳書は原語のギリシア語から日本語に訳されたものであるが、訳者の藤下、田島両氏はこの大作の登場人物たちの語る言葉を関西弁で表現している。これは「自分たち自身の日常語である関西弁でなければ、真に登場人物たちの心の声を自然体で表現することができなかったから」だという。この作品の世界に入り込み、登場人物たちと一体化し、その結果、魂を込めた本訳書が出来上がったのである。現代ギリシア語から日本語への高度な直接翻訳により、現代ギリシアの精神文化を紹介するという貴重な仕事を成し遂げた藤下、田島両氏にエールを送りたい。

名声権威欲、利己心など現実世界における人間の心に潜むあらゆる醜い欲望を体现させ、本来は人々の心の拠り所であり指導者であるはずの神父の偽善と墮落をもあからさまに表現しつつ、その対極には貧しく学もない一人の若者を通して神に従う純粋な魂の昇華を謳いあげている。神が人間に求める道は非常に厳しいが、それに従い歩むことこそが真の魂の救済であるという強いメッセージがそこには込められている。シンプルではあるが、ある意味、聖書のように分かり易く、時代を超えて彼の作品が人の心に響く所以である。

また、この作品はいくつもの現実世界の問題をはらんでいるが、奇しくも難民問題は、まさに今、ギリシアとギリシア人が直面している問題でもあり同時に世界が直面しつつある問題でもある。この2〜3年で百数十万人に上る難民が命がけでエーゲ海をゴムボートで渡り、ギリシアにたどり着いた。その状況は今も続く。戦火を逃れ、あるいは貧しさから逃れようと命がけで押し寄せてくる外国人難民たちにギリシアの人々は寛大である。しかし、難民たちが目指す欧州諸国が門戸を閉ざした結果、行き場がないままギリシアに滞留し続けることになった

(やなぎだ・ふみこ 駐日ギリシア大使館公式翻訳者)  
(A5判・七七二頁・本体三五〇〇円＋税・教文館)

「改革派教会」を知る極めて有益な書

オリヴィエ・ミエ著

菊地信光訳

## 改革派教会



井上良作

本書は、「*Histoire du christianisme des origines à nos jours*」『キリスト教の歴史 その諸起源から現代まで』シリーズ全14巻の第8巻「信仰告白の時代」「*Le temps des confessions (1530-1620)*」第2章「*Les Eglises réformées*」改革派教会」の邦訳である。二千年間のキリスト教史の宗教・政治・文化に及ぶあらゆる分野をカバーする。一巻が一千頁を優に超える浩瀚な書に各教派・研究領域の第一級の研究者らが各章を執筆し、仏語圏の人材の厚みに圧倒される。著者のオリヴィエ・ミエは「*Calvin et la dynamique de la parole Etude de rhétorique réformée*」(カルヴァンと言語のダイナミクス——改革派のレトリックの研究)という、カルヴァンの説教・聖書註解・信条・神学著作・書簡の一切を対象に改革派言語を探求した唯一無比の神学・文学的カルヴァン研究を著した、現代フランスを代表する一人であり、過去には来日講演もしている。

本書は、「第一章 最初の改革派信仰共同体の特徴」、「第二章 カルヴァン主義」、「第三章 改革派教会の発展と議論」の三

えた。

ミエは改革派教会論へのブツァーとストラスブル宗教改革の影響を強調する。「教会は啓示が実現し、聖霊が世界において、またキリストの体への選ばれた者の受け入れのために働く場所である。キリストの体は「キリストの王国」に同化され、信徒の成長する交わりと聖化において実現されねばならない」(二九頁)。ブツァーは「教会のしるし」として神の言葉とサクラメントに教会規律を新たに加えた。ブツァーのストラスブルは他の都市宗教改革のモデルとなり、カルヴァンがジュネーヴで継承・補完し実現させた。

第三章では、カルヴァン主義拡大の主要因である二つの「教育」、すなわち「教会教育」である信仰告白と次世代リーダーを育成する「学校教育」を扱う。十六・七世紀ヨーロッパ諸国において生み出された改革派教会の多様な信仰告白は教理Ⅱ教会モデルとして、反カトリックの教派的闘争の状況のもとで、真実の教会として信仰共同体全体の姿を明白に照らし出した。ミエがとりわけ改革派教会発展史の初期の、フランス、スコットランド、ベルギーの三つの信仰告白に規範的な位置を与えている点は興味深い。

原典で習得する聖書とギリシヤ・ローマの古典学芸の融合をカリキュラムの主としたジュネーヴ・アカデミー初代学長ベザ

部で構成される。第一章では、初期の改革派プロテスタントイジムの生成を促した主要素として、①南西ドイツとスイスにおいて広がっていた都市自治体の共同体意識、②宗教改革者らの人文主義的教養、③ブツァーとストラスブルの礼拝・教会改革の指導的影響力、の三つを挙げる。十六世紀の宗教改革内部は大まかに言ってルター派と改革派の二つの教会類型を生んだ。前者は「一致信条書」によって堅固な教理的一致の礎の上に立ったのに対し、改革派には最終的で普遍的価値をもった信仰告白文書は存在しなかったが、その多様な改革派の信仰告白は一様に共通の文書(聖書)に戻るよう指示した。本書の原題が表すとおり「改革派教会」は複数形で表現される。チューリッヒ・バーゼル・ストラスブル・ジュネーヴと、世俗権力がそれぞれに教会的共同体と市民共同体との緊密な関連を主要な関心事とする諸都市をライン河が結ぶ特異な地域で改革派教会は生まれた。「*Ad fontes*」(源泉に帰れ)の精神漲る人文主義的教養によって製錬された改革者らの積義と説教は人々に聖書を神の啓示として受けとめさせ、キリスト教生活の形式と内容を与

は、カルヴァンの教育理念の表現であるとされる開学式式辞でダニエル書一章を引き、主なる神への畏れと最先端の世俗の知識を備えたダニエルをモデルとした。その中心理念である「*pietas litterata*」(仏≡*piete cultivee*)「*ピエタス・リテラータ*」を「教養人の敬虔」と訳したのは上手い。牧師や世俗界の指導者を多数輩出したジュネーヴ・アカデミーの「*ピエタス・リテラータ*」の理念こそが、このアカデミーをして後の全ヨーロッパ、果ては北米や東洋にまで及ぶ神学校と学校教育のモデルとなりカルヴァン主義伸展の原動力となったのである。

改革派教会はともすればルターの宗教改革の続編のような位置に置かれ理解される。本書は、ツヴィングリ、ブツァー、カピト、エコランパディウス、カルヴァンら改革者の働きと神学が、信仰告白の内容として受け継がれ、次世代の教会・学校・社会へと発展した改革派世界の歴史が包括的且つ有機的に整理されている。第二章では、カルヴァンの神学が信仰告白内容への影響を併せて的確にまとめられ、「改革派教会」を知るための極めて有益な書である。明晰典雅で泉のように湧き出るミエの言葉の大河に日本語でふれ得ることは幸運であり、訳者の労苦と出版社の企画に感謝と敬意を表したい。

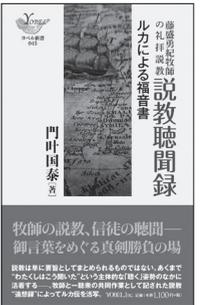
(いのうえ・りょうさく≡清教学園理事長)

(A5判・一五三頁・本体二〇〇〇円十税・一麦出版社)

説教を神の言葉として聞く姿勢を示す聴聞録！  
門叶国泰著

### 藤盛勇紀牧師の礼拝説教 説教聴聞録

ルカによる福音書（ヨベル新書 045）



### 川染三郎

門叶国泰長老が二冊目の『説教聴聞録』を出版されました。主日礼拝で説教された内容を丸ごと聞き、それを書き留めるといふ驚くべきことがなされています。かつて、礼拝説教した後、憂鬱になっていました。思い切って、次週の週報に説教要旨を書きことにしました。重い気持ちであったことは言うまでもありません。しかし、自分の説教を省みて、思い巡らすよい機会でした。

以前のことで、門叶国泰長老が小生の説教の「聴聞録」を届けてくれました。読んでみて、面はゆい思いがしました。それは自分の説教要旨とは少しずれていたのですが、説教全体を丸ごと受け入れて、御自分の信仰によってろ過して、説教のエッセンスが的確に表現されていたのです。その後も小生以外の説教者の「聴聞録」も送ってくれました。説教者の説教を聞いていませんので、説教の内容を知る由もありませんが、それだけに、聴聞録は、門叶国泰長老がその時の説教をどう聞いたかを知ることができ、大変興味深いものでした。

説教者は、礼拝において十字架のキリスト・イエスの現臨と贖いの恵みを証言するもので、会衆は十字架の贖いの恵みを受け取るのです。それゆえ、説教は、「信じているあなたがたの中にキリストの十字架の恵みの御働きを現実のものにする」のです。それゆえ、会衆が説教をどう聞いたかが説教者のみならず、キリストの教会の重大関心事なのです。大説教者と言われているある牧師が、「主日礼拝でなされる説教は20%理解されればいい」と言われたそうです。旧約聖書の預言者は、神の言葉を語っても、全く受け入れられず、気に入らない預言者の言葉に反発して、預言者を迫害したことが記されています。今も、礼拝説教は、神の言葉として聞かれることが少なく、神の御働きを失って、殉教していると言っても良いかもしれません。その結果、神の言葉にある恵みの御働きが失われて、教会が疲弊しつつあると言えます。そのような中で、門叶国泰長老が二冊目の『説教聴聞録』（前者はロマ書）を出版されたことは、大いに意義あることであると言えます。

たしたちから神の言葉を聞いたとき、あなたがたはそれを人の言葉としてではなく、神の言葉として受け入れたからです。事実、それは神の言葉であり、また、信じているあなたがたの中に現に働いているものです」をよりどころにして、聖書から神の言葉を聞き取ろうとして、聖書に取り組んでいます。説教者は聖書から神の言葉を聞き取る修行者なのです。しかし、会衆は、聖書を通して語りかける説教を聞き入れられないことがあります。聞き入れないどころか、自分の好みに合わないこと批判することがあります。説教者は虚しさを感じるのです。戦時中、礼拝順序の最初に、「皇居遙拝」と書かれていました。「心から悔い改め、二度とこのようにならないように」と語ったところ、長老から「解任だよ」と言われたことがあります。説教者は聖書の神よりも、信徒の顔色をうかがいながら説教しなければならない虚しさを感じたことがあります。

『説教聴聞録』は、説教者が語る説教を神の言葉として聞き、受け入れて、誠実に応答しています。聖書は、聞く者に働き、心を動かし、その神の御働きの事実を証言することを求めています。この「聴聞録」は、神の言葉である説教に応答することによって、説教が神の言葉として生きたものになっているのです。説教が神の言葉として、聞く者の内に現に働いていることを証しているのです。最後に、門叶国泰長老が真剣に聖書に向き合っているから、この『説教聴聞録』が書かれ、そして読まれているのだと確信しています。

（かわぐち・さぶろう）日本基督教団鴻巣教会牧師、埼玉地区委員長  
（新書判・三四四頁・本体一〇〇円＋税・ヨベル）

### アントニー・M・コニアリス 松島雄一訳 落ちこんだら 正教会司祭の処方箋171

\*絶賛発売中！



読者から「落ちこんだら」の本は、落ちこみや辛い私にとって、暗闇の中の灯のような本です。久しぶりにすばらしい本に出会えてうれしいです。ありがとうございます。本のすばらしさを再認識しました。いつもキリスト教コーナーで本を探しています（紀伊國屋 梅田など）。「落ちこんだら」の本は私にとってみらいの希望になります。読んでいて安心でき、いやされます。素晴らしい本の出会いを与えていたたいありがとうございます。キリスト教についてもわかりやすく書かれていてすばらしいです。親しみやすい本です。（兵庫・主婦）

### 師父たちの食卓で 創世記を味わう

ジュセッペ・二木 一 訳・佐藤弥生 監修・松島雄一

大頭真一先生評……「ようこそ、心躍る師父たちの「食卓」へ！……聖書の物語は、教会の物語と切り離すことができない。……正教徒の本だから、難しいのではないかと、とか「正統的」カトリック信仰やプロテスタント信仰が危険にさらされるのでは」といった心配は無用である。安心して心躍る師父たちの食卓に加わっていただきたい。在権少！

株式会社ヨベル YOBEL Inc.  
お問合せは info@yobel.co.jp  
〒113-0033 東京都文京区本郷4-1-1  
TEL03(3818)4851 (本体税別表示)  
\*自費出版の専門出版社\*資料・星

聖書全巻通読へと招く格好の案内書  
関田寛雄著

一週一言

「聖書道しるべ」

『聖書唱歌』（相沢良一著）に基づく  
旧約39巻、新約27巻 寸見の旅



木下宣世

この本は著者の関田寛雄牧師が、今は亡き元大島元村教会牧師であられた相沢良一牧師の創作による「聖書唱歌」に触発されて書かれた旧新約聖書全巻の解説書である。

相沢牧師の「聖書唱歌」とは「汽笛一声新橋を……」の歌詞で良く知られた「鉄道唱歌」の曲に合わせて創世記から黙示録までの各巻の内容を七五調の歌詞で歌えるように作られた歌集である。わずか四八文字で各巻の中身を把握、曲に合わせて歌えるよう表現するには余程の文才とさらに深い聖書の理解がなければ到底なし得ぬ業で、まさに相沢牧師ならではの作品である。

相沢良一牧師は伊豆の大島元村教会（日本基督教団）で、半世紀にわたり牧会された。しかし、同教会を拠点としつつ全国各地の諸教会から招かれ、伝道集会等で説教の任にあたられた。相沢牧師ほど多くの教会で御言葉の御用にあたられた方はめずらしいのではないかと思う。

その伝道説教はまことに魅力的であった。御自身の体験談や例話を盛り込んで巧みにキリストの福音の真理を説き明かし、

量であるから全てを網羅することはできないが、それでも読者はその書の全体像を掴むことができる。

相沢牧師の聖書唱歌はどうしてもポイントを一つに絞らざるを得ないので言い足りない部分が残るのは当然である。著者はそれを補うかのようにもう少し詳しくその書の中身を紹介し、その中で最も大切な使信について説き明かすのである。

その仕方は要を得たものであり、短いスペースの中でその書の核心を的確に解説してくれるものである。今更ながら著者の習熟した深い聖書理解に感銘を受けた次第である。

この本は教職にとっても有益であるが、どちらかと言うと信徒の方々を読んで頂きたい。何分にも聖書は大部な書物である。これを全巻読み通すのは容易ではない。

しかし、この本を読むと「それでは自分も読んでみようか」という思いにさせられるのではないか。その理由の一つはこの本の内容が聖書に興味を持たせてくれるものだからである。聖

聴衆の心を捕らえたのである。相沢牧師は説教家であり、優れた語り手であった。

しかし、同時に相沢牧師は文章家でもあった。特に同師が健筆をふるわれたのは彼の個人誌でもあり伝道誌でもある「黒潮」誌においてであった。歯切れが良く、ユーモアに富み、情熱を込めて訴える文章に魅了されたものである。

多い時には一万部を超える部数が印刷され全国の教会や個人に送られた。それだけではなく相沢牧師は教会のある元町全体を一軒一軒配って歩かれた。彼の著作もまた一人でも多くの人に福音を伝えるためであったことが良く分かるのである。

相沢牧師の「聖書唱歌」も同じ思いで作られたに違いない。そして本書の著者である関田寛雄牧師もその思いを感じ取り、共鳴されたのではないかと推察する。即ち一人でも多くの人に神の言葉である聖書を読み通して欲しいという願いである。

著者は創世記から始まる各巻の解説に先立ち、冒頭に相沢牧師の歌を掲げる。それからその書の概要を示し、そして中心的なテーマについて記していく。平均してわずか二頁半程度の分

書がいかに魅力に富んだ書物であり、現代に生きる私たちにとっても大切なことを語っており、決して縁遠い、古臭い書物ではないことを教えてくれるからである。

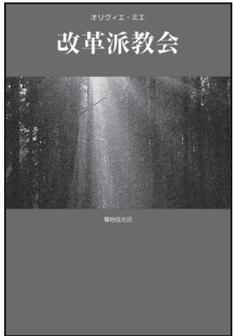
もう一つの理由はこの本が表題の如く聖書の道しるべとなっているからである。聖書全巻を通読するということは高い山に登ったり深い森に分け入ったりすることに似ている。何か導きとなる手立てがないと仲々出発できないのである。その点この本は聖書の世界に私たちを案内する良き道しるべとなっているであろう。

(きしたのぶよ 日本基督教団西千葉教会牧師)  
(A5判・一八八頁・本体一〇〇〇円＋税・キリスト教図書出版社)



## 改革派教会

オリヴィエ・ミエ  
菊地信光\*訳



改革派の思想の誕生から  
教会へと形成され、  
ひとつの教派として  
確立されていく過程を、  
信仰告白・教会規則を  
もとにひもとく。

A5判・並製  
定価【本体 2,000 +税】円  
ISBN978-4-86325-107-6



株式会社 一麦出版社  
札幌市南区北ノ沢 3 丁目 4-10  
TEL (011) 578-5888  
<http://www.ichibaku.co.jp>  
携帯 [mobile.ichibaku.co.jp](http://mobile.ichibaku.co.jp)

生命維持機能としてのスピリチュアリティ  
窪寺俊之著

## スピリチュアルケア研究 基礎の構築から実践へ



西平 直

日本のスピリチュアルケアを最初期から担ってこられた窪寺俊之先生の貴重な論文集である。話の焦点は人生の苦難。病む人、被災した人、傷ついた心。今苦しんでいる目の前にいるこの人に何ができるか。その切迫した問いである。

第一章から吸い込まれるように読んだ。なぜ我が子がこんな目に遭うのか、なぜ神はこのような悲惨な現実を許すのか、何かの報いなのか、時がたてば意味が明らかになるのか、信仰を鍛えるため試練なのか。現代の「ヨブ記」(H・S・クシュナー)『ふたたび勇気をいだいて——悲嘆からの出発』を読み直す試み。ユダヤ教のラビ(クシュナー)の「神理解」が少しずつ変容してゆく。全能の神の前に自らの感情を押し殺すのではない。神に怒りをぶつけ、悲しみを訴える。神は全能ではない、自ら痛む、そして、憐れむ。苦しむ人の心を慰める神。

そうした変容を先生は「思考の枠組みの変化」という。「宗教的思考」から「スピリチュアルな思考」への変化。スピリチュアルな思考は「しなやか」である。柔軟に変わりうる。許容の幅が広く、弾力性に富み、その時その場の状況に応じて、

苦しみや悲しみをも理解する神の姿を代弁するもの」というのである。同じことが、「スピリチュアルヒストリー法」というアセスメントの方法についても語られる。あるいは、自殺予防に役立つスピリチュアルケアの効果という視点についても語られる。それぞれ切迫した実践の現場で必要とされる、「しなやかさ」の具体的な提案であったことになる。

ところで、この本はスピリチュアリティの「負の側面」にも目を向けている。その「毒の部分」がどこから来るのか。例えば、当事者の経験を絶対化してしまう傾向、あるいは、理性的な判断を欠いた「神秘的体験」に満足してしまう傾向、そして、そうした傾向が「カルト」集団と結びつく時、「社会の破壊を救済と信じ込む」論理とつながってしまうと危惧するのである。もし付け加えるなら、「スピリチュアリティ」というカタカナ言葉の節操のなさにも注目したい。この言葉は、まさに「しなやか」である分、いかようにも軽くなる。興味本位の無責任な使用に対してもこのカタカナは何ら抵抗しない。そこである

なやかに、変容する。「スピリチュアルな視点とは、スピリット(霊・風・息)が外部から吹いてきて、新たな思考の枠組みで考えることである」ともいう。

そうであれば、当然、スピリチュアルケアも「しなやか」である。ところがこの本は不思議なことをいう。スピリチュアルケアは「与えられた生命を肯定し輝かせるための支え」というのである。ではなぜわざわざ「生命」が登場するのか。実はこの本は「しなやか」を「生命(いのち)」の本質と見ている。いのちは「しなやか」である。スピリチュアルケアはいのちが輝くための支えである。ならば、そのスピリチュアルケアが「しなやか」でないはずがない。「しなやか」でなかったら、いのちを支えることにならない。この本はその決定的確信の、多様なヴァリエーションをもった、変奏曲なのである。

例えば、それは「執り成し(と)の祈り」の中で語られる。宗教や信仰を持たない人への執り成しの祈り。先生は「作法」という祈ってほしいという願いを「手厚く迎える」作法。優しさやいたわりの心で包み込む「もてなす心」の作法。「どんな小さな

人たちはこの言葉を敬遠する。ではどこで歯止めをかけるのか。この本はスピリチュアリティは「生命維持機能」というのである。「いのちを支える」よりさらに以前、そもそも、人が生きてゆくために必要な機能。生命を維持するために不可欠な人間に内在する働きだということである。しかし生命は多様であり複雑である。間違いもあれば混乱もある。スピリチュアリティは、それらをすべて含んだ意味で、生命を維持する機能。スピリチュアリティが弱るとは生命が弱ること。そして、スピリチュアルケアは生命(いのち)が輝くための支えである。

そう思ってみれば、この本は「生命賛歌」である。穏やかで控えめな、しかし決して折れることのない、しなやかな、いのちの賛歌。常にケアの現場から考えてこられた先生にして初めて可能な「基礎」工事。スピリチュアルケアを「いのち」の視点から鍛え直す、掛け替えない学術的基本文献である。

(にしひら・ただし)京都大学教育学研究科教授  
(A5判・三八四頁・本体四八〇〇円+税・聖学院大学出版会)



新刊

ルーテル教会の  
信仰告白と公同性  
神学的自伝

石田 順朗 著



## ルーテル教会の 信仰告白と 公同性

神学的自伝

石田 順朗 著

●四六判並製 ●本体1,400円

著者はルーテル世界連盟の中核で人種問題、ローマカトリック教会との対話等、重大諸問題に直面するグローバルな教会のリーダーシップの一端を担った。

若い世代の牧師として戦後の教会再建に直接携わった経験を綴った一章「ルーテル教会の公同性—戦後日本の各派ルーテル教会」は貴重な証言記録である。また、宗教改革500年の年にふさわしい論考として「伝道論から見たルター神学」や、「ルーテル教会の真髄、アイデンティティーを今一度とらえなおした。補遺として内外の追悼文6篇と召天記念礼拝の説教(清重尚弘)を収録。

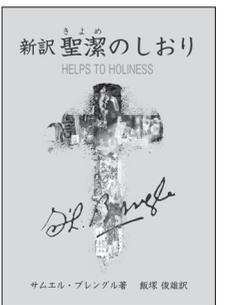
ISBN978-4-86376-061-5

LITHON [リトン]

〒101-0061 千代田区三崎町2-9-5-402  
FAX 03-3238-7638

キリスト教会のレジェンド——待望の新訳・新版  
サムエル・ブレンゲル著  
飯塚俊雄訳

## 新訳 聖潔のしおり



藤本 満

一時代を先導し、キリスト教会の遺産となった書物は、時代に応じて新訳を重ねて、誰もが入手できる状態でいてほしい。トマス・ア・ケンピスの『イミタチオ・クリステイ』、ルターの『キリスト者の自由』、ウエスレーの『キリスト者の完全』等々。このブレンゲルによる『新訳 聖潔のしおり』も、このランクの書物である。

ブレンゲルは一八六〇年に米国インディアナに生まれ、メソジスト系のインディアナ・アズベリー（現デポー）大学で秀でた学業を修め、当時のホーリネス運動・第二次大覚醒において説教者となり、一八八四年にボストン大学神学部の第一期生として入学した。

インディアナの豊かな教会に招聘され牧師職につくが、それを辞してロンドンに渡り、一八六五年に創設された救世軍に入隊した。救世軍の創設者はウイリアム・ブース。彼は都市における貧困層、また社会悪に囚われた人びとに伝道した。当時、ブースの出身教団であるメソジストでさえ、その時代には「教会化」し、教会は徐々に富裕層が占めるようになっていた。

その時、彼はイエスの声を聞く。あなたは彼らの靴を磨いている。しかし、忘れるな、私は彼らの足を洗った、と。それもまた彼の霊性を決定づける体験であった。

本書はブレンゲル自身の証しとともに、十九世紀末の救世軍草創期の霊的勢いがある。いや、それを生み出したホーリネス運動・第二次大覚醒の霊的気概にあふれている。そして、それが世界宣教への情熱を生み出し、日本にキリスト教が伝道された。救世軍の働きも同じである。この霊的気概は救世軍に限らない。大衆へと伝道を志した明治の牧師たち、また「貧民街の聖者」と呼ばれた賀川豊彦などにもつながっていく。

読者は当時のホーリネス系の人びとが説く「聖潔」だけでなく、本書を読むことよって、当時に共通する伝道者の魂の気概、「聖潔」への憧れに触れることになる。

最近の霊的書物は、もつと繊細に書かれている。そこには心

ブレンゲルは、この働きに惹かれた。それは単なる働きの故ではなく、彼の心からあふれ出る神の愛の故であった。ボストン大学の神学部時代、彼は当時キリスト教会に流れていた聖潔を体験する。その時、「ボストンの公園をあまりのうれしさに涙を流し、神を賛美しながら歩き回りました。ああ、何と聖い愛でしょう。その時、私は本当にイエスを知り、心が裂けてしまふかと思うほどに、イエスを愛し慕っていました」（二頁）。

インディアナの教会を牧会し、安定した将来を約束されていたブレンゲルが、救世軍士官学校（神学校）に入ると、彼を待っていた仕事は、士官学校の学生、つまりロンドンの道ばたで救われ、伝道者を目指す者たちの靴を磨くことでした。

「するとたちまち悪魔がやって来て、私が数年前に大学を卒業した者であること、また、その後、二年間神学部で学んできたこと、それからある都会の教会の牧師となり、数百人の人たちがごぞつて救いを求めるような時に職を辞し、その地位を捨て……それが今は何とということか。無学な若者たちの靴を磨かせられている身分とは」（五四～五五頁）。

理学的洞察や教会の精神病理に詳しく、信仰の名の下に傷ついた者たちへの癒やしが説かれる。それはまた、すばらしい進歩であり、牧会的豊かさの発見であろう。

しかし、本書はもつとストレートである。そのストレートさは、無骨ではない。それは聖霊の力強さ、神の愛の圧倒的な力、祈りの熱心から来ている。

どんな時代にも読まれなければならない、いや今日読まれなければならない書物である。それが名説教者、また霊的な書物を翻訳させたら、右に出る人はいないと評者が考える飯塚俊雄氏によって再訳されたことは特筆に値する。ちなみに、最初の『聖潔の葉』翻訳者は山室軍平である。

（ふじもと・みつる）  
（四六判・二二二頁・本体一〇〇〇円＋税・救世軍出版供給部）

日本語で書き下ろす聖書注解  
シリーズ好評刊行中!



VTJ 旧約聖書注解  
出エジプト記  
1～18章  
鈴木佳秀

シリーズ刊行開始記念  
特価 3672円  
（2018年4月30日まで）

出エジプト記の出来事を編集意図という思想的視点から考察。「エクソダス」の現代的意義を我々に問いかける。  
A5判上製・320頁・通常価格4750円

靈魂の不滅か  
死者の復活か

新約聖書の証言から

オスカー・クルマン

岸千年／問垣洋助 訳

辻学 解説

ギリシア的な靈魂不滅説と新約聖書の復活信仰を対比させ、死と死後の問題を神学的立場から考察する。  
四六判並製・88頁・1296円

日本キリスト教団出版局

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18  
☎03-3204-0422 ☎03-3204-0457  
E-mail eigyou@bp.uccj.or.jp (価格8%税込)

http://bp-uccj.jp

書店名	郵便番号	住所	電話	ファックス	URL	メール	郵便振替
北海道キリスト教書店	060-0807	札幌市北区北七条西6丁目	011-737-1721	011-747-5979	http://www.jb-shop.com	sasaki@jb-shop.com	02770-2-56520
善隣館書店	020-0025	盛岡市大沢川原3-2-37	019-654-1216	共用		zeninikan_syoten@yahoo.co.jp	02350-0-874
仙台キリスト教書店	980-0012	仙台市青葉区1-36 敷島センター・1771F	022-223-2736	共用		fcqwkw524@ybb.ne.jp	02230-0-31152
恵泉書房	260-0021	〒新中延町2-2 榎ヶ丘センタービル	043-238-1224	043-247-3072	http://www.keisen.christian.jp	keisen@vesta.ocn.ne.jp	00120-9-43619
教文館	104-0061	東京都中央区銀座4-5-1	03-3561-8448	03-3563-1288	http://www.kyobunkwan.co.jp	xbooks@kyobunkwan.co.jp	00120-2-11357
聖公書店	350-1331	埼玉県狭山市新狭山1-5-1	042-900-2771	042-900-2722		seikoshoten@bible.or.jp	00160-2-18410
アバコ・ブックセンター	169-0051	東京都新宿区西早稲田2-3-18	03-3203-4121	03-3203-4186	http://www.avaco.info	avaco@avaco.info	00130-0-96398
待農堂	167-0053	東京都杉並区西荻南3-16-1	03-3333-5778	共用	http://taisindo-books.jimbo.com/	taisindo@icom.home.ne.jp	00110-8-95827
バイブルハウス南青山	107-0062	東京都港区南青山5-10-2	03-6418-5230	03-6418-5231	http://biblehouse.jp	biblehouse@bible.or.jp	00160-2-18410
横浜キリスト教書店	231-0063	横浜市中区花咲町3-96	045-241-3820	045-241-5881	http://www.biglobe.jp/~yohatara.cbs/index.html	sksch@mva.biglobe.ne.jp	00250-4-2512
清光書店	951-8114	新潟市営所通一番町313	025-229-0656	共用			00560-8-51419
静岡聖文舎	420-0866	静岡市葵区西草深町20-26	054-260-6644	054-260-5612	http://www.s-seibun.co.jp/	info@s-seibun.co.jp	00810-8-26558
名古屋聖文舎	464-0850	名古屋市千種区今池5-28-4	052-741-2416	052-733-2648	http://nagoya-seibunsha.coocan.jp/	nagoya-seibunsha@nifty.com	00810-5-14073
京都ヨルダン社	602-0854	京都市上京区荒神口邊河原町東入ル	075-211-6675	075-211-2834	http://web.kyoto-net.or.jp/people/kjordan/	kjordan@mbox.kyoto-net.or.jp	01010-2-594
大阪キリスト教書店	530-0002	大阪市北区曽根崎新地2-1-15	06-6345-2928	06-6345-2187	http://osakacbs.web.fc2.com/	ochrbook@river.ocn.ne.jp	00990-3-43009
バイブルハウスびぶるすの森	591-8041	堺市北区東雲東町1-1-16	072-257-0909	072-253-6132		sakai-jbs@bible.or.jp	00160-2-18410
神戸キリスト教書店	650-0021	神戸市中央区三宮町3-9-18三陽ビル2F	078-331-7569	共用		kobe-kirisyo@mse.biglobe.ne.jp	01150-7-45120
広島聖文舎	730-0841	広島市中区舟入町12-7	082-208-0022	082-208-0177		hseibun0951@yahoo.co.jp	01360-4-1958
徳島キリスト教書店	770-0052	徳島市中島田町3-57-1	088-633-6335	共用	http://www6.ocn.ne.jp/~tcs/	tokushoten@shirt.ocn.ne.jp	01630-5-37119
松山キリスト教書店	790-0804	松山市中一万町1-23	089-921-5519	089-921-5413	http://www.geocities.jp/masujama_1007/index.html	sksch@dokidoki.ne.jp	01650-1-2120
北九州キリスト教ブックセンター	802-0022	北九州小倉北区上雷野5-2-18	093-967-0321	共用		kbookcenter@bible.or.jp	01780-4-39965
新生館	810-0073	福岡市中央区舞鶴2-7-7	092-712-6123	092-781-5484	http://www.sinseikan.jp/	info@sinseikan.jp	01750-5-10932
キリスト教書店ハレルヤ	862-0971	熊本市大江4-20-23	096-372-3503	共用		k-haleruya@bible.or.jp	00160-2-18410
沖縄キリスト教書店	903-0207	中環通調子線777 沖縄キリスト教館内	098-943-7221	共用	http://www.okinawacbs.com/	okinawacbs@yahoo.co.jp	020308-1283

※一般書店関係の方は 日キ販営業部 TEL 03-3260-5670 にご連絡ください。

## ■新教出版社

### 聖書の風景——小磯良平の聖書挿絵

小磯良平画／岩井健作著

日本を代表する洋画家・小磯良平は日本聖書協会の委嘱を受けて32枚の聖書挿絵を制作した。牧師として信徒小磯と親しく接し、その画業を近くで見続けた著者が、一つ一つの挿絵を鑑賞し、モチーフとなった聖書テキストを解説しながら、画家がそのテキストの何に焦点を当てて描いたかを探る。挿絵と聖書の往復運動の中から、やがて読者は聖書のメッセージそのものへと誘われるであろう。

A5判・150頁・本体予備25000円

## ■日本キリスト教団出版局

### 魚にのまれたヨナのおはなし

ピーター・スピアー作／小宮由詔

ヨナは「二ネベの町へ悔い改めるよう神の言葉を伝えに行きなさい」と命じられますが、逃げ出してしまいます。そして船が遭難し、魚にのまれて……。預言者ヨナの不思議で壮大な物語を、繊細で色鮮やかなタッチで描いた聖書絵本。解説資料「ヨナの旅」付き。

A4判変型・40頁・本体15000円

## 日本の説教者たちの言葉

### わが神、わが神

### 受難と復活の説教

加藤常昭編

日本の説教者たちは、キリストの十字架と復活をどう語ってきたのか。植村正久、高倉徳太郎、由木康、竹森満佐一、鈴木正久、北森嘉蔵、左近淑など15人の説教を取録。各編に丁寧な解説を付し、説教者の生涯と、

説教の読みどころを紹介する。「これが福音の核心！」と納得できる、待望の書。

四六判・260頁・本体25000円

## ■教文館

### 金の子牛像事件の解釈史

——古代末期のユダヤ教とシリア・キリスト教の聖書解釈  
大澤耕史著

ユダヤ教とシリア・キリスト教の近接関係を解明する貴重な研究。

A5判・224頁・本体54000円

### 田村直臣のキリスト教教育論

——その形成と変遷を巡って

小見のぞみ著

明治期に「男女平等」「子どもへの権利」を訴え実践した田村直臣の教育論を紹介する。

A5判・480頁・本体60000円

### ヒエロニュムスの聖書解釈

加藤哲平著

ヒエロニュムスの研究史を網羅的に論じ、「ヘブライの真理」という語に込めた思想を解明する。

A5判・352頁・本体52000円

### 新キリスト教組織神学事典

東京神学大学神学会編

長年読者の信頼を得てきた『キリスト教組織神学事典』の新版。現代の視点から神学における最重要項目を選定し直し、全項目を新たに書き下ろした。

四六判・400頁・本体42000円

# 福音と世界

2018年3月号

特集 キリスト教と犠牲のシステム

寄稿者 小原克博、浅野淳博、松平功

小西哲郎、高橋哲哉ほか(座談会)

書評 『いのちの水』 岡田圭／好評連載 福音

の地下水脈(FUN) 聖書とわたし(徐京

植) はじめての台湾キリスト教史(高井ヘラー

由紀・最終回) 地のいと低きところにホサナ(フ

レイディミカこ) 現代神学の冒険(若名定道)

第一テモテ書(辻学)、詩篇(月本昭男) ほか

A5判・本体588円・〒70円

定期購読についてはお気軽にご相談下さい。

新教出版社 TEL: 03-3260-6148  
Email: sales@shinkyō-pb.com

## 編集室から

ヘンリ・ナウエンの本を少しずつ読んでいます。再読のものもあるし、新しく読んでいるものもある。昨日は『傷ついた癒し人』(日本キリスト教団出版局)に、併録された「生きた想起者」を読んだ。どれくらい読まれているのだろうか。よく知られた「傷ついた癒し人」の陰に隠れていたら、残念だ。

こういう問いから始まる。「牧師を支える霊的な力は何なのか。牧師が退屈で無愛想で熱意のない官僚主義者になることから、すなわち、たくさんの計画・案件・会合の約束などを持つていながら、働きのさ中で意気銷沈してしまふことから、牧師を守るものは何なのか」。

ここを切り口に、ナウエンは、牧師の仕事(ミニストリー)と霊性(スピリチュアリティ)の結びつきを再確認しよう、と読者を誘っていく。というのも今、牧師たちは、自分の仕事を、

霊性から(すなわち祈りから)切り離す誘惑に陥ってしまったから。「祈りはぜいたくだ。そんなひまはない。カトリックには例えばトラピスト会修道士のように祈りに専念する人々がいるが、彼らはミニストリーには携わっていない」、そんなふうを考える過ちに陥っているから。

ナウエンはそういう現状に向けて、言う。牧師は、「イエス・キリストを生きて生きたい起こさせる者」すなわち、「イエス・キリストの想起者」だ、と。そして牧師の仕事は、社会における有用性によってではなく、イエスを想起させることを第一の指針として整えられるべきだ、と。

そこから牧師の仕事が再検討されていく。例えば教会員の痛みを癒すとはどういうことか、牧師の不在の意味、あるいは祈りのテクニクの重要性。

六〇ページほどのいっきに読める分量だが、汲めども尽きぬ豊かさをたたえている文章だと思う。(土肥)

本のひろば 2018年4月号 予告

本・批評と紹介…全国連合長老会日曜学校委員会編『新・明解カテキズム』、ノエル・ストレットフイルド著『ふたりのスケーター』、トム・ハーバー作『いのちの水』、小川修著『パウロ書簡講義録6―コリント後書講義』、加藤常昭編『わが神、わが神―受難と復活の説教』他

今話題の聖書学者  
N.T.ライトの新刊!



悪と不条理がはびこるこの世界で、神は何をしておられるのか? 現代を代表する新約聖書学者による新しい神義論の試み。十字架の勝利と神の王国を見据え、キリスト者を新しい使命へと導く画期的な書。

## 悪と神の正義

N・T・ライト著 本多峰子訳 ● 四六判・216頁・本体2,000円

# Q文書

山田耕太



訳文とテキスト・注解・修辭学的研究

● A5判・456頁・本体7,100円

イエスの言葉資料Qとは何か? 復元したギリシア語本文と日本語対訳を提示し、注解と修辭学的分析を加えた初の試み。「失われた福音書」からイエスの真の言葉とキリスト教思想の原点に迫る金字塔的研究!

さらなる読書のために

## 新約聖書 歴史・文学・宗教

G・タイセン著 大貫隆訳

● 本体2,000円

新約聖書執筆の背景と収集に文学史的にアプローチし、その成立をトータルに理解する斬新かつ画期的な試み。

3月刊行予定

牧師・神学生・信徒必携の事典

## 新キリスト教組織神学事典

東京神学大学神学会編

長年にわたり読者の信頼を得てきた事典の新版。現代の視点から神学における最重要項目を選定し直し、全項目を新たに書き下ろした。執筆陣も完全に刷新。組織神学を学ぶ上で必要な、伝統的な教理の理解から今日的・現代的議論までをコンパクトにまとめたハンデイン事典。 ● 四六判・400頁・本体4,200円

好評の事典

## キリスト教神学基本用語集

J・ゴンザレス著 鈴木浩訳

● 本体2,800円

わかりやすさに定評のある用語集。豊富な見出し語で二千年にも及ぶ神学のあらゆる重要事項を解説。



教文館

〒104-0061 東京都中央区銀座4-5-1 TEL03-3561-5549 (出版部)  
本のご注文は(e-shop 教文館)へ! <http://shop-kyobunkwan.com/>

e-shop 教文館

# キリスト教の再定義のために

荒井 献著

(あらい・ささく氏は東京大学、恵泉女学園大学名誉教授)

日本の聖書学を牽引し、また教会と教育に仕えてきた著者の、半世紀に及ぶ信仰的・学問的実存の軌跡を鮮やかに示す一書。55編の文章を精選。

◆四六判・本体4500円

2月23日

# 聖書翻訳者ブーバー

堀川 敏寛著

彼はなぜ聖書翻訳を志したのか？ その特質をなす預言者的解釈とは何か。聖書翻訳という側面に光を当ててブーバー思想に肉薄した労作。

◆A5判・本体4100円



2月23日

# 神と向き合って生きる

横田 幸子著

(よこた・さちこ氏は日本基督教団引退教師)  
聖書のメッセージを深く読み解き、「信ずる」「祈る」「愛する」「生きる」というテーマに沿いながら、現代人の魂の渴望に応える。

◆B6判・本体1700円

魂を震わす

23の説教

# カルヴァン政治思想の形成と展開

住田 博子著

自由の共同体から抵抗権へ  
独裁的な神政政治か近代的自由の先蹤か。ジュネーブの実態を検証しながら、カルヴァンの聖礼典論に表現された共同体思想に着目した俊英の力作。

◆A5判・本体3600円

# 信仰の基礎としての神学

松田 央著

現代人の知的・求道的関心に応える神学入門。

◆四六判・本体1700円

キリスト教神学への道案内

# 現代アメリカ神学思想

増補新版 平和・人権・環境の理念

宮平望著

◆A5判・本体2800円

ポフ、コーン、リューサー、マクフェイグ、カブ、ハワーワスらの神学を鋭利に分析。

「現代アメリカの宗教と政治に関する神学的考察」と森本あんり『反知性主義』の書評を追加。



本  
の  
ひ  
ろ  
ば  
五十七年七月七日 第三種郵便物認可  
二〇一八年三月日発行 毎月一回日発行

発行所 〒162-0814 東京都新宿区新小川町九-1 一般財団法人キリスト教文書セタ  
電話〇三三三六〇一六五〇 振替〇〇七〇一五二六七九  
発行人 本村利春 編集人 土肥研 印刷所 ㈱平河工業社  
発売所 日本キリスト教書販売株式会社 電話〇三三三六〇一五六七〇

定価七八円(税抜七円)千62円  
一年分三〇〇円(送料共)